

# 令和7年度小学校教科教育推進研修（国語科）研修成果物

指導者 三原市立沼田西小学校 赤司 奈緒  
第5学年 1組 22名

- 1 単元名 ロボットとの未来について考えよう  
「弱いロボット」だからできること」（東京書籍 「新編 新しい国語 五」）

## 2 単元について

### (1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語第5学年及び第6学年の〔思考力、判断力、表現力等〕Cの指導事項「オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。」を受けて設定している。

「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」力を育成するには、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したことを基に既有的知識や理解した内容と結び付けて自分の考えを形成したりすることが必要となる。

本単元で扱う教材文「ロボットとの未来について考えよう「弱いロボット」だからできること」は、あえて不完全に作られた「弱いロボット」を取り上げ、現代のテクノロジーの進歩の背景にある、「便利で高い性能を持つものほどよいものだ」という考え方を問題視している文章である。それに対して資料の「ロボット開発は進む」は、人間の力を超えたロボットの姿や、それが見せる豊かな未来の姿を述べている。このような立場の異なる二つの文章を照らし合わせながら読むことで、児童自身はどちらの立場に近いかを考えたり、自分ならどのようにロボットを活用するべきかについて考えたりすることができるであろう。また、現代ではロボットは身近な存在になりつつあるため、自分が見たり使ったりしたこと等と関連づけたり、比較しながら読み進めやすい。これらのことから、自分の考えをまとめることに適した教材であると考えられる。

### (2) 児童観

本学級の児童は、説明的な文章「和の文化を受けつぐ一和菓子をさぐる」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、情報を重ね合わせて読むことから自分の考えを広めたり深めたりする学習をした。本文と資料を重ね合わせて自分の考えをまとめる活動では、多くの児童は文章と図表などを結び付けるなどして情報を整理することができた。しかし、本単元で育成したい資質・能力の「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」ことについては、自分の考えをもつことが難しい児童がいた。まずは、文章から理解したことに基づいて自分の考えをもつことができるようにする手立てが必要である。

### (3) 指導観

指導に当たっては、主に以下の3つのことに取り組む。

まず、1つ目は、読書環境を整えることである。ロボットに関する本を児童数以上用意し、並行読書ができるようにしたり、「考え聞かせ」を行ったりする。そうすることで、児童の知識の幅を広げることや経験を想起させることに繋げる。

2つ目は、組立メモを取り入れることである。自分の考えをまとめやすくするために、組立メモを作成する活動を取り入れる。組立メモには、①既有的知識 ②内容理解 ③自分の考え の欄を設け、視覚化しながら自分の考えをまとめることに繋げる。また、組立メモを作成する際には、ロボット開発が進むことに賛成か反対かを問うことで、自分の考えをもちやすくする。

3つ目は、文章を読んでもった考えをまとめるために、教師が作成した組立メモに書いた3つの内容が一つの文章としてつながっていない例をあえて提示する。この文章を読んでもどう思うかを問い、3つの内容が一つの文章としてつながっていないと、なぜこのような考えをもったのかが分からないことに気づかせる。そうすることで、考えをまとめる際には、作成した組立メモに書いた3つの内容が一つの文章としてつながっていることが「考えをまとめる」ことであると実感できるようにする。

## 3 単元の目標

- 情報と情報との関係付けの仕方を理解し、使うことができる。  
〔知識及び技能〕（2）イ
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕C（1）オ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力、人間性等」

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 情報と情報との関係付けの仕方を理解し、使っている。 (2)イ	① 「(読むこと)」において、文章を読んで理解したことに基 づいて、自分の考えをまとめ ている。 (C(1)オ)	① 進んで、文章を読んで理解 したことに基づいて、自分の 考えをもち、学習課題に沿っ て、自分の考えをまとめよう としている。

<評価の具体及び手立て>

	評価規準【「おおむね満足できる」状況(B)】	「努力を要する」状況(C)と判断した児童への指導の手立て
知識・技能①	<p>情報と情報との関係付けの仕方を理解し使っている。 (2)イ</p> <p>ワークシート</p> <p>本文と資料の関連する部分を四角や丸で囲んだり、矢印や線で結び付けたりしながら見いだした共通点や相違点、類推したことなどを簡潔にまとめ、情報を整理しているかの確認。</p>	<p>「努力を要する」状況(C)と判断した児童への指導の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本文と資料のどこどこを線で結べばよいか分からない児童には、前時までを振り返りながら段落ごとに何について書かれているかを確認し、関係しているところはないか問う。</li> <li>○ どう関係しているのかが分からない児童には、詳しく説明している部分や、正反対である部分等を個別に問いかけ、どう関係しているのかを理解しやすくする。</li> </ul>

<p style="text-align: center;">思考・判断・表現①</p>	<p>「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (C (1) オ)</p>	<p style="text-align: center;">ワークシート・一人1台端末</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>① 既有的知識</p> <p>ファミリーストランに行くとき、ロボットができた料理を運んでくれたことがあります。わたしは、ロボットが運んでくれた料理を取って机に置き、ロボットの画面にある完了ボタンを押しました。すると、ロボットはキッチンの方へと戻っていききました。私もお母さんも、温かい気持ちになって、ロボットに「ありがとう」「がんばってね」と笑顔で声をかけました。ロボットが仕事をしてくれるので、客の私たちだけでなく、お店で働く人も便利だと思います。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>② 内容理解</p> <p>資料「ロボット開発は進む」を読むと、ある機能に特化したロボットの開発は進んでいて、幅広い場面で活躍しているということが分かりました。また、「弱いロボットだからできること」からは、テクノロジーの進歩が続けば続くほど、テクノロジーと私たちの関係は心地よいものから遠ざかってしまうことも分かりました。</p> </div> </div> <p>③ 自分の考え(①と②を結び付けて)</p> <p>このファミリーストランのロボットが、さらに進化して、料理を作り、机の上まで運び、さらに、水が少なくなったら注ぐことまでできるようになってしまうと、どうなるのでしょうか。次第に私たちは、ロボットに感謝しなくなるのではと思いました。そして、そのような状況がこわいと感じました。</p> <p>だから、これから、便利なロボットが開発され、身近に使えるようになると思うけれど、今の状況を忘れず、わたしたちはロボットに感謝したり応援したりしていきたいです。そうすると、お互いできないところは支え合う心地よい関係になると思います。</p>	<p>○ ①既有的知識が思いつかない児童には、お掃除ロボット等の身近なロボットの写真を提示し、使った時や見かけた時に気付いたことや思ったことがないかを問いかける。</p> <p>○ ②内容理解で何を書いたらよいか分からない児童には、「～を読んで、～が分かりました。」という文型を示したり、文章から分かることを問うたりする。</p> <p>○ ③自分の考えがまとまらない児童には、ある機能に特化したロボットの開発か、弱いロボットの開発のどちらかに賛成または反対なのかを問う。また、その感じた理由も問うことで、自分の考えを形成しやすくする。</p>
	<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>進んで、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをもち、学習課題に沿って、自分の考えをまとめようとしている。</p>	<p>行動観察、形成された考えを述べた文章 思考・判断・表現①で書きまとめた文章の①～③が整合するように何度も読み返したり修正・加筆したりして試行錯誤しながら、粘り強く取り組もうとしているかの確認。</p>

5 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・ <u>評価方法</u> 等
一	1	<p>○学習の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元で身に付けさせたい力を児童と共有する。</li> </ul> <p>① 情報と情報との関係付けの仕方を知り、使う。</p> <p>② ロボットとの未来について考え、文章にまとめる。</p> <p>③ 書いた文章を、読み返したり、修正・加筆したりして、粘り強く取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・20年後のロボットについて予想や期待すること等を書きまとめる。</li> </ul> <p>○ロボットを思い出して、メモをとる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料や本文を読みながら、教師による「考え聞かせ」を聞き、知っている、見たことのあるロボットを思い出し、メモに残す。</li> </ul> <p>[思考・判断・表現①「①既存の知識」に関連]</p>				
二	2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	<p>○資料「ロボット開発は進む」を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな働きをするロボットか</li> <li>・何のために作られたのか</li> <li>・そのロボットのことをどう思うか</li> <li>・筆者の主張は何か</li> <li>・この先どんなロボットが開発されていくと思うか</li> </ul> <p>○本文「弱いロボット」だからできることを読む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな働きをするロボットか</li> <li>・何のために作られたのか</li> <li>・そのロボットのことをどう思うか</li> <li>・筆者の主張は何か</li> <li>・テクノロジーが進歩することで、どんな問題があるか</li> <li>・「弱い」からこそできることは何か</li> </ul> <p>○資料と本文を関係付けながら内容を整理する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詳しく説明している部分や、正反対である部分等、関係しているところを見付け、矢印で結び、何がどう関係しているのかを書く。</li> </ul> <p>[思考・判断・表現①「②内容理解」に関連]</p>				<p>○ [知識・技能①] ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報と情報との関係付けの仕方を理解し、使うことができているかの確認</li> </ul>

	6・7 (本時) ・8	<p>○自分の考えを組立メモにまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①既存の知識、②内容理解を結び付けて、ロボットとの未来について自分の考えを構成し、組立メモにまとめる。</li> </ul> <p>○自分の考えを文章にまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組立メモをもとに、ロボットとの未来について自分が考えたことを文章にまとめる。</li> </ul> <p>○共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれが書きまとめた考えを読み合い、お互いが文章を読んでもった考えを共有する。(賛成か反対かを述べてもよい)</li> </ul>			<p>○</p> <p>[思考・判断・表現①] <u>ワークシート・一人1台端末</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめているかの確認</li> </ul> <p>○</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度①] <u>行動観察、形成された考えを述べた文章</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで、既存の知識と文章を読んで理解したことを結びつけ、①～③が整合するように何度も読み返したり修正・加筆したりして試行錯誤しながら、粘り強く取り組もうとしているかの確認</li> </ul>
三	9	<p>○学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習前と学習後の自分の考えの変化に気づき、学習を振り返る。</li> </ul>			

6 本時の学習

(1) 本時の目標

既存の知識と文章を読んで理解したことを結び付けながら、ロボットの未来について自分の考えをまとめることができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
<p>1 学習計画を確認し、本時の学習課題を確認する。</p>	<p>□今日は、ロボットの未来について自分の考えを文章にまとめましょう。</p>	
<p>ロボットの未来について、組立メモをもとに自分の考えを文章にまとめよう。</p>		
<p>2 前時までの学習を振り返り、組立メモに書いたことを共有する。</p>	<p>○友達の考えを聞いて、自分の組立メモを振り返ったり、形成した考えをより明確にしたりするために、友達と共有する。</p> <p>□生活の中で、ロボットを使ったり、見かけたりした経験について確認しましょう。</p> <p>○単元を通してメモしたものをしながら確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリーレストランで、料理を運ぶロボットがいた。「お待たせしました。」と言いながら運んでくれて、嬉しかった。</li> <li>・家に掃除をするロボットがいる。ごみを探しながら吸っていくのを見て、「がんばれ」、「ありがとう」という気持ちになった。</li> </ul> <p>□資料と本文から、どのようなことが分かりましたか。また、どう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料から、ある機能に特化したロボットの開発は進んでいて、活躍の場が広がっていることが分かりました。</li> <li>・本文からは、テクノロジーの進歩が続くと、テクノロジーとわたしたちの関係は、心地よいものから遠ざかってしまうことが分かりました。</li> <li>・ロボット開発が進むことはよいことのように思うけど、進みすぎるとよくないこともあると知り、なるほどと思いました。</li> </ul> <p>□ロボットの未来についてどう思うか確認しましょう。</p> <p>○単元を通してメモしたものをしながら確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろなロボットが開発されすぎると、人</li> </ul>	

<p>3 自分の考えを文章にまとめる。</p> <p>4 振り返りをする。</p>	<p>間が何もしなくなると思った。優秀なロボットができて、頼りすぎないようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お掃除ロボットは便利だけど、弱いロボットが増えると、人間のコミュニケーションがとれていいと思った。弱いロボットなら、たくさん開発してほしい。</li> </ul> <p>○③自分の考えを書く際には、①既有的知識と②内容理解を結び付けて書くことを伝える。</p> <p>□ロボットの未来について、自分の考えを文章にまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロボットの未来について、自分の考えを文章にまとめる。(一人1台端末を活用してドキュメントに入力していく。)</li> </ul> <p>◆自分の考えがまとまらない児童には、ある機能に特化したロボットの開発か、弱いロボットの開発のどちらに賛成または反対なのかを問う。また、その感じた理由も問うことで、自分の考えを形成しやすくする。</p> <p>○次時は、お互いの文章を読み合い、感想を共有することを伝え、次時の見通しをもたせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(ワークシート、一人1台端末)</li> <li>・進んで、文章を読んで理解したことと既有的知識を結びつけ、①～③が整合するように何度も読み返したり修正・加筆したりして試行錯誤しながら、粘り強く取り組もうとしている。(行動観察、形成された考えを述べた文章)</li> </ul>
---	--	--

(3) 板書計画

<p>③自分の考え ①と②を結び付けながら</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開発されすぎると、人間が何もしなくなる</li> <li>・優秀なロボットができて、頼りすぎない</li> <li>・弱いロボットが増える</li> <li>↓人間のコミュニケーションがとれる。↓良い</li> <li>弱いロボットを開発してほしい</li> </ul>	<p>② 内容理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロボットの開発は進んでいて、活躍の場が広がっている</li> <li>・テクノロジの進歩が続くと心地よいものから遠ざかってしまう</li> <li>・ロボット開発が進むことはよいことだけど、進みすぎるとよくないこともある</li> </ul>	<p>① 既有的知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリールン料理を運ぶロボット</li> <li>「お待たせしました。」と言いながら運んでくれた ↓嬉しかった</li> <li>・家に掃除をするロボット</li> <li>ごみを探しながら吸っていく</li> <li>「がんばれ」、「ありがとう」という気持ち</li> </ul>	<p>④ 組立メモ</p> <p>ロボットの未来について考えよう</p> <p>「弱いロボット」だからできること</p> <p>岡田 美智男 文</p> <p>⑤ ロボットの未来について、組立メモをもとに、自分の考えを文章にまとめよう。</p>
---	---	---	--



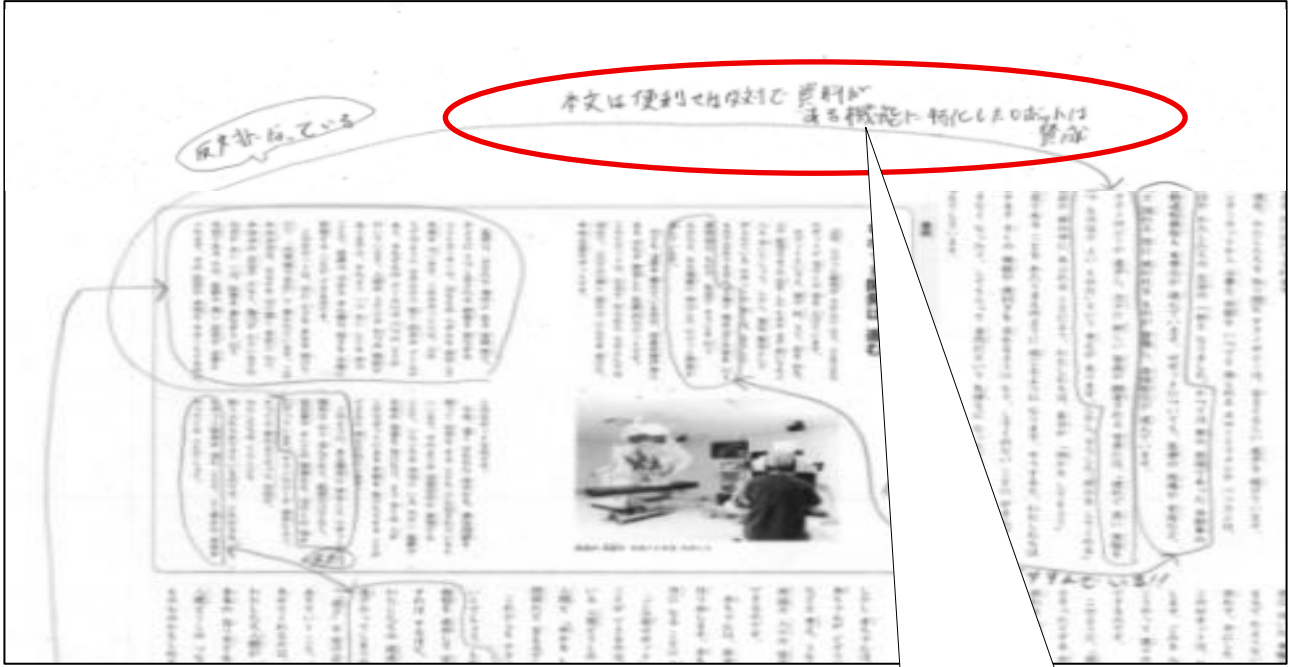
8 評価の実際

(1) 評価の具体

知識・技能

「十分満足できる」状況 (A)

本文と資料の関連する部分を結び付け、見いだした共通点や相違点、類推したことなどを短い文で簡潔にまとめている。



「おおむね満足できる」状況 (B)

本文と資料の関連する部分を結び付け、見いだした共通点や相違点、類似したことなどを表記している。

資料にある「医師の求める繊細な動きを正確に再現することのできる「手術支援ロボット」は、本文にある「便利で高い性能をもつ物」に当てはまるだろうと類推している。



関連のある内容同士を線でつなぎながら、どういう関係なのかを整理している。

## 思考・判断・表現

### 「十分満足できる」状況（A）

既有的の知識や内容理解をもとに、理由を明確にしながらか自分の考えを文章にまとめている。

家族の気持ちを明るくしてくれたり、話し相手になってくれたりするロボットがいると聞いたことがあります。そのロボットは、歌やダンスで面白い動きを見せることで、家族を笑顔にすることができ、ロボットが相手を励ますので、とてもすごいと思いました。このことから、ロボットは人を喜ばせたり、幸せにしたりすることもできるということが分かりました。

本文「弱いロボットだからできること」を読んで、ロボットでは、十分な機能を求めず、弱さを受け止め、人とロボットはたがいに協力し、関わりながら生きていくことが大切だということが分かりました。しかし、資料「ロボット開発は進む」を読むと、人間の能力を超えたロボットが開発されることによって、人間にとってより豊かな未来がやってくる。と書いてありました。

ほくは、本文のゴミ箱ロボットや家族の気持ちを明るくしてくれるロボットのような弱いロボットの開発が進むことについては賛成です。理由は、弱さを受け止め、たがいに関わりながら生きること、ロボットにしてもらって当然だという気持ちがなくなり、協力しあえるからです。しかし、人間の能力を超えたロボットの開発には反対です。ロボットが全部やることになるから、人間が必要ではなくなる未来になってしまうからです。ロボットを使い分けて人は生活をすばらしいと思います。

児童の既有的の知識と、文章の内容について理解したことを繋げて自分の考えをまとめている。

### 「おおむね満足できる」状況（B）

既有的の知識や内容理解をもとに、自分の考えを文章にまとめている。

僕は、子どもの遊び相手をしてくれる、「ペッパーくん」というロボットを使ったことがあります。ペッパーくんには、タブレットの画面がついていて、じゃんけんをしてくれます。他にも、「あなたの勝ち」や、「わたしの勝ち」など少し喋るので、親しい感じがして、あたたかい気持ちになりました。

資料「ロボット開発は進む」を読んで、人の能力を超えたロボットは、便利で仕事が楽になり、生活が豊かになると分かりました。しかし、本文「弱いロボットだからできること」を読むと、人の能力を超えたロボットも便利でいいけど、人に頼りすぎるようになったりそれが当たり前になってしまったりすることも分かりました。

僕は、人の代わりに仕事をしてくれるロボットや、自動で掃除してくれるロボットなど人間の能力を超えたロボットは、あまり進化していくと、人間の仕事がなくなり、お金が手に入らなくなってしまうこともあると思うので反対です。しかし、医療系のロボットは、人の命を救うことにつながるから、どんどん進化して行ってほしいと思っています。また、弱いロボットも、これからも増えてほしいです。

文章の内容を理解したことを基に自分の考えをまとめている。

## 主体的に学習に取り組む態度

### 「十分満足できる」状況（A）

課題に対して、進んで、自分の考えをまとめようとし、これまでに書き溜めたワークシートなどを読み返しながら、粘り強く取り組もうとしている。

- 「十分満足できる」状況（A）にあると判断した児童は、文章を打つ活動に入るとすぐに、組立メモやこれまでに書き溜めたワークシートを自ら見返し、「ここも使えそう。」とつぶやきながら文章を打ち進める姿が見られた。また、一度打った後も自分から読み返し、表現を言い換えたり理由を打ち足したりする等、よりよい文章にしようと繰り返し修正する様子が見られた。

### 「おおむね満足できる」状況（B）

課題に対して、自分の考えをまとめようとし、これまでに書き溜めたワークシートなどを読み返しながら、取り組もうとしている。

- 「おおむね満足できる」状況（B）にあると判断した児童は、組立メモを見返しながら、自分の考えを文章としてまとめようとし取り組む姿が見られた。教師の声掛けを受けて読み返しを行い、文章を整えようとする姿が見られた。

## (2) 児童の評価

### 知識・技能

「情報と情報との関係付けの仕方を理解し使っている。」における「十分満足できる」状況（A）の児童は4人、「おおむね満足できる」状況（B）の児童は11人、「努力を要する」状況（C）の児童は3人だった。

### 思考・判断・表現

「「C読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。」における「十分満足できる」状況（A）の児童は3人、「おおむね満足できる」状況（B）の児童は11人、「努力を要する」状況（C）の児童は3人だった。

童は15人、「努力を要する」状況（C）の児童は2人だった。

主体的に学習に取り組む態度

「進んで、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをもち、学習課題に沿って、自分の考えをまとめようとしている。」における「十分満足できる」状況（A）の児童は5人、「おおむね満足できる」状況（B）の児童は14人、「努力を要する」状況（C）の児童は1人だった。

## 9 成果と課題

### (1) 成果

- ・ 本単元の学習前に行った社会見学での工場では、実際にロボットが荷物を運んだり作業したりする場面の間近で見ることができた。この経験は、第一次の「知っている、見たことのあるロボットを思い出し、メモに残す」活動において、ロボットを実際の働きと結び付けて想起することができ、具体的なイメージをもたせてメモに残すことができた。そのため、〔知識及び技能〕の資質・能力を育成するのに、効果的であった。
- ・ 第二次の6時間目では、自分の考えを構成し、組立メモにまとめた。この活動は、自分の考えを整理する上で有効な手立てとなったと考える。①既有の知識では、1時間目にメモしたことの中から1つ選び、②内容理解では、2～5時間目で整理したワークシートを見ながら書いた。特に、③自分の考えについては、個別に考えを口に出す時間を設けた。言葉が不十分なところについては、児童に質問しながら思いや考えを膨らませたり、児童から出てきた言葉をその場でメモに書き留めたりしたことで、文章に書こうとしている内容を明確にすることができた。この過程を通して、教師が児童一人一人の考えを把握しやすくなるとともに、児童自身も言語化することで言葉を加筆する等、考えを整理することができた。結果として、ほとんどの児童が自分の考えを比較的スムーズに文章にまとめることができた。そのため、〔思考力、判断力、表現力等〕の資質・能力を育成するのに、効果的であった。

### (2) 課題

- ・ 努力を要する状況に留まった児童は、自分の立場は決まっていたものの、どのように文章として構成すればよいか分からず、自分の考えを文章にまとめる段階で手が止まる様子が見られた。「私は、ロボット開発が進むことに（賛成・反対）です。その理由は、～だからです。」等の文章構成の型を提示するべきであった。また、その型を用いて一文を書いてみる活動を取り入れ、個別に支援していく必要があった。
- ・ 一人1台端末を活用した文章作成では、修正・加筆を容易にできるメリットがある一方で、児童がどれだけ読み返して修正したり加筆したりしたのか、思考の過程が可視化されにくいデメリットもあることが分かった。瞬時に変わっていく画面を机間指導で全員を評価するには限界があり、主体的に学習に取り組む態度の評価の在り方について課題が残った。
- ・ ロボット開発が進むことについて賛成か反対かを考える際、多くの児童が反対であった。これは、資料（賛成）の読み取りを行った後、本文（反対）の読み取りを行ったため、読んだ順番に影響されたと考える。立場を一度決めた後に、異なる立場の意見を聞いたり、再度資料を読んだりして、立場を変えてもよい時間を設定すると様々な視点から立場を決めることができたと考ええる。

### (3) 今後に向けて

- ・ 一人1台端末を活用した文章作成において、今後は、文章を一度作成・提出した後、修正・加筆は文字の色を変えて入力する工夫や、一度作成した文章を印刷して余白に手書きで修正・加筆する工夫等を取り入れたい。そうすることで、思考の過程が可視化できると考える。そして、主体的に学習に取り組む態度の評価につなげていきたい。

- ・ 賛成か反対か立場を決めることについては、今後は、立場を一度決めた後に、異なる立場の意見を聞く時間を設定したり、教師が意図的に揺さぶり発問を行ったりすることで、立場・理由を再考する場の設定をしたい。多様な意見に触れる中で、自分の考えを見直したり、立場を変えたりしながら、より妥当な判断ができるようにしていきたい。